

手のひらにすっぽり入る「豆えほん」に夢中になるのは、小さな子どもだけではなく、今月の月イチHappyは、豆えほん作家であり職人でもある、かわばた たつやさんをご紹介します！



Profile
 マメカバ本舗
 豆えほん作家・職人 かわばた たつや
 http://mamekaba.web.fc2.com
 山口県下関市生まれ。工業高校インテリア科を卒業後、家具工場、学生援護会を経て1998年にイラストレーター兼グラフィックデザイナーとして独立。2013年9月、豆えほんを中心としたマメカバ本舗を設立。さまざまなクリエイターたちと豆えほんの可能性を追求しながら全国に発信中！



●自作漫画を売りつける
 小学生でした(笑)

ブラックジャックや宇宙戦艦ヤマトなど、かわばたさんの小学生時代にブームを巻き起こしたコミック漫画の数々。現在、マメカバ本舗の主宰を務めるかわばたさんは、どんな幼少期を過ごされたのでしょうか？
 「モノづくりが好きで、おとなしい子でしたよ。欲しい漫画がたくさんあったけど、なかなか自分の小遣いでは買えず、文房具屋で一番小さなノートを買って自作漫画を描き、友だちに売ったお金で新刊を買っていました(笑)」
 やがて、かわばた少年のモノづくり熱はボードゲームやガンダムなどに発展しますが、気が付けば高校3年生の終盤…。

ページをめくる感覚は、不変的なもの。

「就職活動に遅れをとり、卒業ギリギリで木工家具の製造会社に就職しましたが、結局2年ぐらいで学生援護会に転職。ちょうど求人誌が単なる情報ではなく、いかにユニークな内容で企業をアピールするかという(求人広告)に変わる頃でしたね」
 そこで改めて脚光を浴びたのが、かわばたさんの得意とするイラストです。かわばたさんが手掛けた求人広告は業界誌にも幾度となく取り上げられ、求人広告業界で12年の歳月が過ぎようとしていました。



●小さいからこそ
 《本らしさ》にこだわる。

その後、デザイン事務所を立ち上げ、知人のためにオリジナル豆えほんを制作したのをきっかけに、2013年9月、豆えほん制作をメインとするマメカバ本舗をリスタート。かわばたさんの作品を含む個性あふれる全9作品のラインナップが勢ぞろいしたところです。まず手に取って驚くのは、本としてのクオリティの高さです。表紙のハードカバーに特殊コーティングが施され、背の内側には花布(はなぎれ)までついています。しかも、製本は一冊ずつ手作りと聞いてさらにびっくり！



「体裁はやはり、『本らしさ』にこだわりました。豆えほんは、手に持った時の質感や指でページをめくる時の感覚など、紙媒体のよさが凝縮されているんですよ」
 現在、豆えほんは東急ハンズ博多店熊本店(12/29)でも期間限定で展示販売され、来年は天神のテイストファイブや東京のトムズボックスでの展示販売が決定するなど、まさに順風満帆です！
 「豆えほんは、絵本としてだけでなく、雑貨としても大きな可能性を秘めています。今後はワークシヨップやイベントを積極的にに行い、えほん作品を世に送り出す場を少しずつ広げていきたいですね」
 とかわばたさん。スマートフォンや電子書籍がどんなに普及しても満たされないものがあるとすれば、それは、かわばたさんのような手仕事を大切にしている職人のこだわりかもしれません。7センチ×6センチの豆えほんには、紙から伝わる小さなHappyがたくさん詰まっている気がします。



月イチHappy 読者プレゼント!

豆えほん9作品、各1冊9名の方にプレゼントします! どの豆えほんが当たるかは、届いてからのお楽しみ♪
 応募方法/Happyのホームページ「お問い合わせ欄」よりご応募ください。
 応募締切/2013年12月31日